百

一年

画数 6

筆順 一 丆 百 百 百 百

オン ヒャク

クン

成り立ち

百

もとの字は〝白〟で、いまの〝しろ〟という字とおなじかたちの字でした。この字は〝おやゆび〟のかたちをあらわしたものですが、むかしは、白というかずを、おやゆびをたててあらわしたからです。かたてで五を、りょうてで十をあらわしたのとおなじことです。

しかし、〝しろ〟とかたちがおなじなので、くべつするために〝白〟のうえに〝一〟をくわえ〝百〟という字にしました。

「十の十ばい」というおおきなかずをあらわした字なので、「かずがおおい」といういみにもつかわれます。

使い方

▽おしょうがつに百人一首をしてあそびました。

▽ライオンは百獣のおうです。

▽百の三ばいは三百です。

熟語例

▽百人一首（百人のかじんのうたを一首（うたのかぞえかた）ずつあつめたもので、かるたとしてとりあうあそびにつかわれています。）

▽百獣（おおくの獣のこと。すべての獣のこと。）

▽百科事典（すべての事についてわかるようにせつめいしたじてん。わからないことをしらべるためにつかう本）

▽百害あって一利なし（害ばかりあって、すこしもよいことがないこと。）

▽百戦百勝（戦えばかならず勝つこと。）

▽百年河清を待つ（河は黄河のこと。黄河のみずはすむことがないことから「いつまでまってもじつげんしない」ことのいみにつかいます。）

▽百聞は一見に如かず（「みみで百かい聞くよりは、めで一かい見たほうがたしか」ということ。）

文

一年

画数 4

筆順 丶 亠 ナ 文

オン ブン・モン

クン ふみ

成り立ち

文

せんをこうささせてえがいた〝もよう〟で〝もよう〟といういみの字です。〝文字〟も、せんをこうささせてえがいた〝もよう〟ですから、はじめは〝文〟といって〝文字〟とはいいませんでした。

いまのおおくの字のように、くみあわせてつくられるようになり、字がどんどんうまれたので、「子がうまれる」いみの〝字（1年31）〟をかりて、これを〝字〟としました。それから、ふるい〝文〟と、新しい〝字〟とをあわせて〝文字〟というようになったのです。

〝文〟は〝文章〟のいみ、〝がくもん〟のいみ、また〝文化〟といういみにもつかわれます。

使い方

▽よい文章をよむと、たいへんおもしろく、ためになります。

▽文字はたくさんあって、さいしょのうちはおぼえるのがたいへんですが、そのうちによくわかるようになるでしょう。

熟語例

▽文学（文字でかきあらわされたげいじゅつ。また、そのさくひん。また、それをけんきゅうする学問）

▽文盲（文字がよめないひと。文字にたいして、なにもわからないから、こうよびます。）

▽文通（てがみをやりとりすること。）

▽文具（文字をかくのにつかう道具。えんぴつやけしごむなど）

▽作文（文字をかいて、文章を作ること。）

▽名文（すぐれた文章）

▽文化（よのなかのちしきがしんぽして、くらしやすくなったり、べんりなものや、よいものが、たくさんできたりするじょうたい）